

戦史研究センターへの改編に寄せて

庄司 潤一郎

防衛研究所は、防衛省に対する政策立案支援のさらなる向上と調査研究等の基盤強化を目的として、平成 23 年 9 月 1 日に大幅な組織改編を実施いたしました。

それに伴い、戦史部は、戦史研究に対する所内外の多様な要望に対応するとともに、史資料に係わる公文書館機能を強化するため、「戦史研究センター」に改編された次第です。組織的には、従前の第 1 戦史研究室・第 2 戦史研究室という 2 個室から、戦史研究室、安全保障政策史研究室、国際紛争史研究室からなる 3 個研究室、及び史料室を包含した計 4 個室体制へと拡充されました。

歴史を遡れば、戦史室は昭和 30 年 10 月陸上自衛隊幹部学校において発足、同 31 年 5 月防衛研修所（現在の防衛研究所）に編入されましたが、大規模な改編は、同 51 年 5 月の戦史部への改編に次ぐ 2 度目となります。戦史室は、「戦史叢書」刊行の事業を成し遂げ、戦史部では、調査研究対象を先の大戦に限定することなく広げると同時に、『戦史研究年報』の刊行、「戦争史研究国際フォーラム」の開催など、その成果の発信も活発化させました。

昭和 51 年以来 35 年に及ぶ伝統ある「戦史部」の名称を「戦史研究センター」へと改め直したのは、同 51 年 5 月戦史部改編のために開催されました参事官会議における「恒久的、総合的な戦史の調査研究部門として、いわゆる『戦史センター』としての態勢を整えることが望ましい」との今後のあり方に関する提言に由来しています。防衛省・自衛隊内はもちろん、我が国における戦史に係わる、文字通り「センター」になることを目標とした次第です。

同じ参事官会議におきまして、先の大戦に加え、戦史部の基本的業務として定められた「防衛庁・自衛隊史の調査研究・編さん」及び「最近の諸紛争に関する史資料の収集・編集」については、その後徐々に部分的に着手され、特に近年では、「オーラル・ヒストリー」の作成、「戦争史研究国際フォーラム」など拡充しつつあります。今回の改編は、こうした研究分野の多様化を名実ともに組織的に具体化した点に大きな意味があります。

一方、かつては戦史部に所属しており、その後図書館へ移管されていた旧陸海軍に関する史資料、及びその管理に当たる史料室が、史資料は 31 年ぶり、史料室は 9 年ぶりに戦史研究センターに戻り、一体的な運営による適切な保管と公開、リファレンスの充実が期待されます。

もちろん改編は形に過ぎませんが、今後共、「戦史叢書」など戦史室以来の伝統を継承しつつ、我が国の戦史に係わる唯一の「センター」として、実も充実・発展させていく所存ですので、御指導・御支援をお願い申し上げます。

（戦史研究センター長）